

mark
Levinson.

Dual Monaural Power Amplifier

No.532

標準価格 ¥2,800,000(税込¥2,940,000)/1台 2008年9月末発売予定



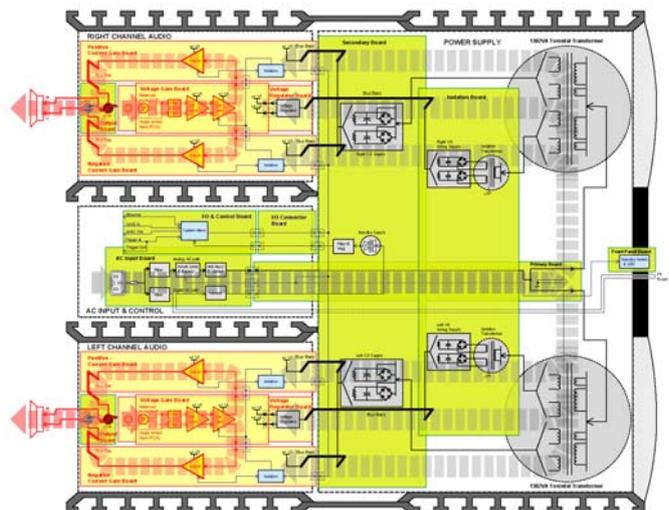
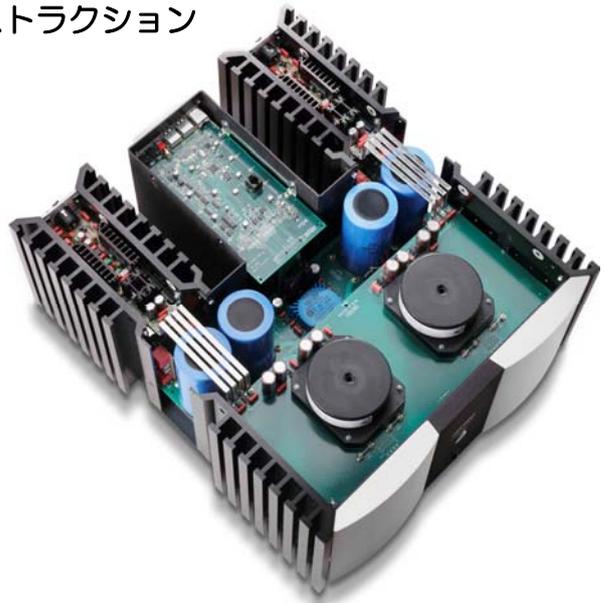
モノラル・パワーアンプ No.33 の基本構成を

踏襲したデュアル・モノラル・アンプ

モノラル・パワーアンプの傑作、No.33 および No.33H により完成の域にまで達した、マークレヴィンソンのフルバランス・オペレーション・パワーアンプ技術。その設計コンセプトをワンシャーシに結合させたのが、デュアル・モノラル・パワーアンプ - No.532 です。インプットからアウトプットまで、凝縮された最短信号経路で構成されたフルバランス型モノラル・パワーアンプ回路をタワー型デザインの左右独立筐体に収め、コントロール回路をセンターに、強力無比なパワーサプライをフロント部に収めた独立4ブロック構成。これらをバスバーや低損失コネクタで連結し、シャーシ、トップパネルで結合、一体化させた究極のデュアル・モノラル・パワーアンプです。

機能的必要条件から導き出された独自のコンストラクション

パワーアンプの外観的特長の多くは、その機能、性能に占める割合の高さから、内包する電源部のボリュームと温度的必要条件から形作られます。No.532 の左右独立、プラス用マイナス用独立のダブルヒートシンク構造は、左右チャンネルの出力それぞれ半分にそれぞれ片面のヒートシンクが充てられ、回路構成的にも放熱効果の点でも理想的なバランス型構造を実現。各出力回路がそれぞれ1個のスピーカーターミナルを駆動します。入力~ボルテージドライブ基板はプラス/マイナス両出力基板上部に位置し、それぞれの出力回路をドライブ。シンプルかつ最短経路での信号増幅を可能にしています。直交配置された各基板のレイアウトは基板同士の相互誘磁干渉を抑え、信号純度を高く保ちます。



また、No.532 の独特なシャーシレイアウトは、オーディオ回路と密接な関係を保ちながら電源部を適切な距離に隔離することを可能にします。中央部のタワー背面から入力された AC 電源は中央セクションを通り強大なパワーを生み出すフロント部のメイン電源に供給され、クリーンな直流電源となって左右タワー部の各出力サーキットへと供給されます。オペレーション回路、電源回路など、ノイズ発生源となる総ての回路はオーディオ入出力回路とは独立したエリアに納められ、必要にして十分な距離を隔ててレイアウトされています。



ウルトラ・ローノイズ・パワーサプライ

二基の大型 1382VA ローノイズ・トロイダル・トランスフォーマーには更なるノイズ低減のためにコイル間に静電遮蔽シールドを装備し、AC 電源と低電圧の二次側出力とを分離。コイル相互間の静電容量を大幅に減少させ、高域ノイズ伝播を防いでいます。さらに綿密なフィルタリングを施すことにより、驚くほどの低ノイズ化を果たしています。

回路毎に最適装備されたローカルレギュレーター

負荷に近接して個別に電源供給を行う「ポイント・オブ・ロード型レギュレーター」と呼ばれる方式は、No.33/No.33H 同様マークレビンソン・パワー

アンプ伝統の手法ですが、No.532 ではより進化した手法が採られています。レギュレーター類は信号経路に物理的に非常に近接して設置されていますが信号系とは別の基板にあり、電源ラインがオーディオ基板上を流れ微弱な音声信号を汚す事の無いよう、外部から基板の要所へ直接供給される構造となっています。これは低レベル信号に対するノイズ対策として理想的な設計です。また、入力～ボルテージ・ゲイン・ステージ用には専用のトロイダル・トランスを備えた独立電源を搭載。メインオーディオ電源および、レギュレーターとゲインボードに供給される電源との間には二重の絶縁処理を施し、干渉や電源を経由してのノイズ混入を防いでいます。



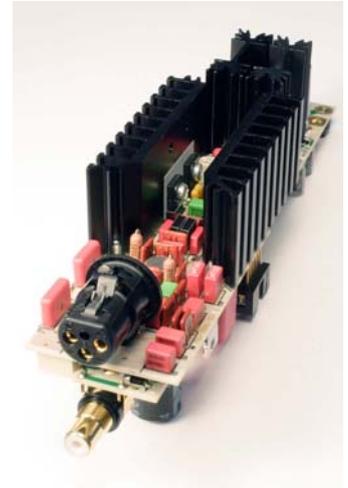
より速く、よりクリーンな信号伝達のためのコンパクト設計

各回路は、パワーレギュレーションの効率化とノイズ干渉の最小化のために非常にコンパクトな設計となっています。

最新の高音質サーフェスマウント・パーツ群を用いて凝縮されたオーディオ回路のコンパクト・デザインは、信号経路を最短化し伝送遅延や位相回転、回路基板の寄生静電容量を極小化します。

総ての信号劣化要因が小さい為、より速く、よりクリーンでより広帯域な信号伝達/増幅が可能になります。

また、デリケートなオーディオ信号の高純度増幅のために、総てのオーディオ回路基板には No.326S プリアンプにも採用され、優れた誘電率から高い評価を受けている“Arlon-N25”によるマルチレイヤー・プリント基板を採用。入力から出力まで実質的な伝達ロスが極めて少ない設計で、非常に低インピーダンスであり、信号劣化も最小限に抑えられています。



伝統のフルバランス設計

ディファレンシャル信号により経路上に混入したノイズスパイクが相互にキャンセルされるため、バランス設計はノイズ除去の手法として非常に効果的です。No.532 は入力ステージの並外れて

高いコモンモード・ノイズリジクションにより、アンプの信号経路におけるノイズの混入、増幅を防ぎます。

また、No.532 ではバランス入力は直接そのままの形で処理され、アンバランス入力は入力ステージでバランス変換され伝送、増幅されます。入力から出力まで、全てのオーディオ信号がバランス信号のまま処理されるため、最大のコモンモード・ノイズリジクション効果を発揮できます。

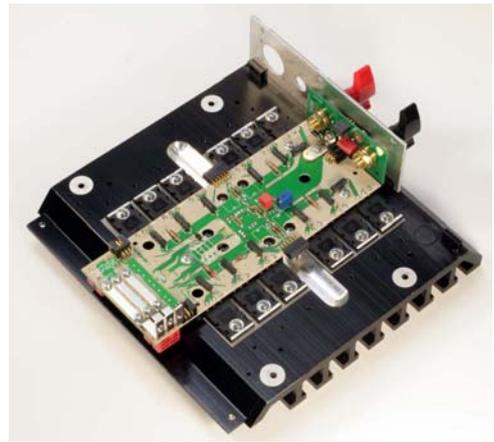


最小のNFBで最大限の歪低減

フィードバックは過去の多くのMLアンプよりさらに小さく、また均整が採れており、外部ノイズと歪を最大限に排除します。

フィードバック信号から隔離された状態でDCサーボが掛けられています。

片チャンネル当り12ペア、24個の出カデバイス数はNo.432の約2倍です。多数の出カデバイスをパラレル接続で使用するにより、個々のデバイスに掛かる電流負荷を軽減し、フィードバックを多用することなくクロスオーバーディストーションを非常に低く抑え込んでいます。



ロスの無いストレート&ダイレクト入出力設計



アンプの入カステージはストレートな信号処理を行っているため、他にバッファもフィルターも存在しません。信号経路にはリレー、コンデンサー、コイルを一切挿入せず、各基板同士はケーブルを用いずバスバーや低損失コネクタにより連結。直線性を損なう要素を最小化し、出カインピーダンスを低く抑えています。また、出カデバイスから出カターミナルへも直接信号が導かれる構造とし、ここにもインピーダンスレベルを増加させる何物も経由させていません。

これらストレート&ダイレクトな信号伝達、増幅経路により信号劣化を排除し、信号ロスを最小化しています。

進化を遂げた新時代の Mark Levinson Dual Monaural Power Amplifier

No.532は、No.432に対しては勿論、No.33/33Hなど過去のどのMLアンプと比較しても非常に進化的な回路、構造となっています。パワーサプライは驚くほど低ノイズであり、非常に低インピーダンスとなっています。コンパクトで高密度な設計によりオーディオ信号経路は最短化され、またノイズから完全に隔離されるようデザインされています。

すべては、可能な限り最高な物とするために



No.532 Specifications

| | |
|-----------------------------|---|
| 定格出力(20Hz-20kHz,THD<0.1%) : | 400W(@8Ω) |
| 周波数特性(-0.1dB) : | 20Hz-20kHz |
| S/N比(1W基準) : | 85dB以上 |
| 入力端子 : | RCA(アンバランス)×1 XLR(バランス)×1 |
| 入カインピーダンス : | 100kΩ(バランス) 50kΩ(アンバランス) |
| 電圧ゲイン : | 26.8dB |
| 入力感度 : | 2.59V(@8Ω定格出力時) |
| 出力端子 : | 大型バインディングポスト×1組 |
| 消費電力 : | スリープ時 : 5W スタンバイ時 : 131W 無信号時 : 135W 定格出力時(@8Ω) : 1,731W |
| 外形寸法(幅×高さ×奥行) : | 445×243×539mm |
| 本体重量 : | 55.3kg |
| 梱包重量 : | 58.9kg |



2008.08.12